

# 報 告 書

2021年 2月 27日

活動実施団体名 NPO法人行徳野鳥観察舎友の会

責任者名：野長瀬雅樹

報告書作成者名：野長瀬雅樹

## 1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

江戸前干潟研究学校

## 2. 実施日

2020年10月11日

## 3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

## 4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時～ 保護区内の海岸・池に前日設置した定置網を回収しながら、その都度採集された生物を観察・記録。

13時半 調査終了。野鳥観察舎前で振り返り・解散

## 5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加9名

スタッフ7名

## 6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

行徳鳥獣保護区は東京湾奥部、宮内庁新浜鴨場に面する海面を埋め立てて造成された人工の自然保護区です。東京湾とは水門と水路で繋がり、干潮時には狭いながらも泥質の干潟が現れます。本土部には地域の生活排水を水源とする池や棚田があり、自然の力で浄化を図りつつ流下し、海へ注いでいます。淡水・汽水・海水と連続的に繋がるヨシ原（=かつての東京湾の風景）が復元された保護区の水生生物相に親しみ、保護区の環境や東京湾について知ってもらおうというのが江戸前干潟研究学校です。2015年から毎月1回の調査観察会を実施しています。

10月は2家族と1名。2歳児も含め半数は子供達とにぎやかな顔ぶれでした。台風14号の接近

に伴う高潮警戒で数日前から保護区の水門を閉鎖していた影響で魚たちの動きは少なかったようで、海水域の小網は採集数がとても少なかったです。しかしながら百合ヶ浜の大網では大きなスズキにニホンウナギ(ともに約90cm)、小さなアカエイやサヨリが入っていました。淡水域では長靴池で前月に続きニホンウナギ(約70cmと80cm)、モクズガニ20匹などこちらも皆が盛り上がる結果でした。

最後は当日正式オープンとなった市川市行徳野鳥観察舎前で調査の振り返り。来館者や通行人にも大きなスズキをご覧いただき、目の前の保護区に生息している様々な生き物の一端を実感してもらいました。

## 7. 写真



調査中の様子



逃げ出すウナギ



魚を数える



百合ヶ浜沖の大網 スズキとウナギ



ヒイラギやサヨリ



新観察舎前でまとめと振り返り